

(別紙4－1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503593		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌平岡		
所在地	札幌市清田区平岡8条2丁目4-15		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 12 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・町内会に受け入れて頂き、共存できていると実感できる事。・毎年(当社の年度期)ごとに、取組をし、研究発表を全国のホームへしている事。【eX・ふまねっと、共用ディサービス、タクティールケア、細かな日常の運動など】・毎月1度全員で外出をし、季節を感じる【eX・ホテルで新年会、雪まつり会場をみながらランチ・花見ランチ・海水浴・観楓会等】五感をフルに活用する事で、元気を維持できると、信じてケアをさせていただいている事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【職員の高いスキルとケアサービスへの反映】 全国に多数のグループホームを展開する運営法人の人材育成方針によって職員は各種研修や業務を通して高いスキル習得し、利用者一人ひとりに寄り添った丁寧なケアサービスに努めています。 【楽しく変化のある暮らしの実現】 納涼祭等種々の行事や美術館見学などの外出行事、ホーム内の様々なレクリエーション、各種ボランティアの訪問、体験学習など小学生との交流等楽しく変化のある暮らしを支援しています。 【美味しく楽しい食生活の支援】 嗜好や身体状況に配慮した調理専門職員による日々の美味しい食事、季節行事の別途献立や出前の利用、毎月実施している外食、駐車場での食事会など美味しく楽しい食生活を実現しています。 【地域と一体感のあるホーム】 町内会行事への参加協力、住民と共に楽しむ町内会と共同の納涼祭、5月開催の平岡食堂、小学生の体験学習や児童会館児童との交流、高齢者等SOSネットワークへの協力など地域と一体感があります。
--

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します							
項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼により、運営理念を全員で唱和し、職員は共有している。「さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれあいを大切にします」の項目とおり、町内会・小学校など地域と連携している。	法人の運営理念とホーム独自の理念があり、ユニット単位の目標も設定しています。職員はこれらを内部掲示や朝礼時の唱和と業務を通して理解し、利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の就業体験・避難訓練・納涼祭等、ご入居者様と一緒に行事を行っている。	道路清掃など町内会行事への積極的参加協力、住民も楽しむ町内会と共同開催の納涼祭、小学生や児童会会館児童との交流、高齢者等SOSネットワークへの協力、避難訓練に多数の住民参加などホームと地域の日常的交流があります。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座小学生向け、を小学校へ行き、授業の一環として、講座の開催をしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員より、ふまねっとの存在を伺い、導入し取り組んでいる。	運営推進会議は多数の町内会関係者も参加して定期的に開催され、報告事項と各種課題について意見交換を行い、災害時の屋外サイレン設置など参加者の意見をホーム運営に反映させています。	運営推進会議の理解と参加促進のため家族に会議内容が分かり易い議事録を送付していますが、会議参加が少ないので、家族への継続的依頼による家族の参加増を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは、常に連携をとり、お話しボランティアの方をお願いされた事もある。	ホーム運営に関する相談等は、主に北海道エリア本部が対応していますが、管理者はグループホーム連絡会の役員経験を有し、地域包括支援センターとの緊密な連携や高齢者等SOSネットワークへの協力など行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修は、ホーム内研修で、全員が受講する事になっている。玄関の施錠は、していないも、夏は玄関ドアも開けっ放しになっている。	身体拘束をしないケアについて毎月実施の内部勉強会や法人系列事業所の研修会で取り上げており、関連マニュアルの整備によって職員は理解し、実践しています。日中の玄関施錠をせず、職員の見守り意識高揚のため、あえて玄関のセンサーも付けていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、ホーム内研修で、全員が周知できるように3回行っている。また、虐待についてのニュースが報道された時は、速やかに話合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回のホーム内研修で必須の項目としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、重要事項説明書・契約書・運営規定等、2時間をかけ読み合わせをし、行っている。十分な説明のもと、さらに説明不足があった場合は、随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、【ご家族向けアンケート】を実施している。直接本社に意見がとどくシステムになっており、本社より、フィードバックされる。真摯に受け止め、ご意見は、反映されていると思う。	家族来訪時に職員と利用者の様子等について話し合い、法人系列全事業所対象の家族アンケートの実施や毎月発行のホーム便りと担当職員の写真入りの個別お便りを郵送しています。家族からの要望等は内部で協議し、サービスに反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、【職員向けアンケート】を実施している。直接本社に意見がとどくシステムになっており、本社より、フィードバックされる。真摯に受け止め、職員の意見は、反映されていると思う。	日常業務やミーティング等を通して職員と管理者は運営に関する話し合いをしているほか、全事業所の職員アンケートも実施しています。職員からの意見や提案と本社から報告されるアンケート結果も参考にしてホーム運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年行う当社の事例研究発表には、北海道予選を通過できる様に全員で取組んでいる。結果、毎年東京の事業計画会議に職員も参加できている。参加した職員は、ホーム長・リーダーと昇格異動をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織・社会を理解できていない職員も多く、入職する。月1回のスタッフ会議には、わかりやすく資料を用意し、教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	清田区では、他事業グループホームの職員との交流会を開催し、相互関係を深めている。また、清田区限定で、SOS徘徊創作模擬訓練を行っている。その場でも、他事業・他職種の方と連携し、交流を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者・計作者がアセスメントに伺い、ご本人の状態・要望・希望を把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時、ご本人とは別にご家族の希望・要望をじっくり伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご家族・ご本人のニーズは何かをよく聞きだし、現在のニーズに合ったサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	納涼祭をはじめ各種イベントにご家族様の参加を呼びかけ【ともに】行う事の場を提供させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスには、ご家族様にご参加頂き、希望・要望を踏まえてケアに反映する様にしている。また、面会時には、職員からも、日常の様子をご報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は、新しい物を買そろえるのではなく、以前より使用していた馴染の物の持ち込みをお勧め・説明している。	利用者の思い出の場所などへの外出希望には状況に応じて職員が同行支援するほか、墓参りなど家族に連絡しての外出もあります。知人等の訪問者には温かく迎えて利用者とゆっくり過ごせるよう配慮して馴染みの関係が継続するよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の会話の橋渡しを職員は、常にしている。ケアプランにも会話の橋渡しをする事、サービス内容として、明記している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせて頂いたご家族様等が「懐かしい」と、ホームの納涼祭のボランティアにこられたり、通りがかったからとよられたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを中心に、ご本人の変化・意向を話し合い、月1回のスタッフ会議でも全員の意見を反映するシステム作りができています。	職員は、日々のケアサービス経験から思いや意向を把握していますが、困難な場合は担当者を中心とした話し合いや利用者の生活歴と利用者の表情や様子を観察して判断しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時のアセスメントは、現在住んでいる環境に近づける様にベッドの配置等も同様にしている。必ず、見取り図を持ち帰り、スタッフに申し送る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さない様、職員は申し送りノートを使用し、全員が把握できる様に環境を整えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは全員が行う。また、ご家族様より新たな情報を頂いた時は、サービス内容の変更・追加により、その都度現状把握をしている。	担当職員を中心に全員がモニタリングで利用者の状況を把握し、ケアプラン変更の有無を検討しています。プラン変更のカンファレンスには、家族も参加して話し合い、主治医の意見も取り入れてプランを作成し、変更内容を全職員が共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ケアプランを反映できる様に、ナンバリングしている。ナンバリングは、実践している事、日々提供しているサービスについてであり、職員は共有で来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室の導線の変更、茶碗・座布団等日常品の変更、など変化に合わせ、サービス内容も変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平岡小学校より、5年生は、認知症を学び、5年生限定Caféに参加、一緒にCafé作りを行っている。また、6年生の就業体験には、チラシゴミ箱の作り方を6年生に教えたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時にかかっていた病院を継続している方もいる。また、訪問マッサージを週1回受けている方もいる。	協力病院医師による定期訪問診療が月2回と同病院の看護師による訪問が毎週あります。かかりつけ医等の他病院への通院には原則家族に依頼しますが、状況によって職員が対応し、利用者の体調管理に十分配慮しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時、1週間の変化を報告できる様に、訪問看護用の送りファイルを用意している。看護師に漏れのないようにするシステムが構築されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、相談員との話し合いはよくできている。急な退院にも対応している。入院翌日の午前中。また、補助具(歩行器)など、あったらいい、と言われた物は系列事業所より確保し、早急な要望にも対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りは、都度行っている。主治医・ご家族・職員と十分に話し合い、カンファレンスを行っている。状況の変化に基づき看取りプランも1週間で見直ししている。	ホームでの看取りを可能とし、入居時に家族へ重度化と看取りの指針を説明して同意書を頂いています。利用者の重度化が進行した際には、家族への説明と主治医との相談を含めて看取りの対応を協議し、職員もホーム方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務時間内に救急救命講習を習得しに消防へ行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会から、火災時等緊急を要する時に、外部に向けたサイレンをとりつけたらどうか？とのご意見を頂戴し、さっそく取り付けた。	年2回の定期避難訓練には、毎回多数の住民の参加協力があり、消防署から自然災害対策の話もあります。また、運営推進会議の意見から外部向けサイレン設置や備蓄品の整備、避難場所の周知徹底など災害対策を実施しています。	消防署の指導をきっかけに自然災害時への対応を検討中ですので、他の介護事業所の事例なども研究し、当ホームの環境条件を考慮しながら最適な対策案作成を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のホーム内研修を年1回の必須項目としている。月3回同じ研修を行い、全員が周知できる様にしている。	ホーム内勉強会で人格尊重とプライバシー保護の必要性を理解し、日常業務においてもホーム長からのアドバイスを利用者へのケアサービスに反映させています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方が自己決定できる声かけをしている。その方の希望は、出来る限り思い通りにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	買い物・外出・入浴等は、出来る限りその方の希望に沿うように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームには、化粧品・マニキュア等を用意し、その日の気分により、おしゃれを楽しめる様に工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お肉の苦手な方には、御一人分魚にしたり、ケチャップが好物の方には、おひとり分ケチャップソースをかけたりと、また、多くを摂取出来ない、器が重いと持ちにくい等用途にあわせた提供をしている。	利用者の嗜好や身体状況に配慮し、栄養バランスのとれた献立の食事を調理専門の職員が調理しています。季節行事やホーム行事にも希望を聞きながら別途献立や毎月実施の夕食、庭での食事会など美味しく楽しい食生活を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、取れない方にはゼリー・嗜好品(サイダー・乳製品)を提供。摂取してはいけない方には、氷のccをはかり(1個12cc)魔法瓶コップに入れ、少量を長く持ち続けれる工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	18名全員が1日4回口腔ケアをしている。往診歯科医にもお褒めの言葉を頂いている。誤嚥性肺炎の発症率も当ホームは少ない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	完全に24時間オムツ対応の方は18中1名(要介護5)の方のみ。他入居者様く夜間も2時間ごと、3時間ごとのトイレ誘導を実施。その方の排泄パターンに合わせた誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間間隔や表情等の様子を観察しながらさりげない声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。利用者の状態に合わせて本人に適した下着類を選び、汚れにも気をつけて清潔を維持するように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、運動と食事。17名のご入居者様は、毎日午前と午後に運動をしている。月に1度は、ユニットごと優勝旗をかけて行う体操ひろばも行う。また、寒天ゼリーを毎食提供をしたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	嗜好にあわせ、浴室に花を飾ったり、入浴剤を入れたりしている。また、同性介助を希望されている方には、同性の介護士が介助している。	毎日、午前1名と午後2名の入浴を実施し、入浴剤使用や同性介助に配慮しています。また、利用者の入浴毎にお湯を取り替えているため気持ちよく楽しんでおり、家族も清潔に配慮したケア支援に喜んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、バラバラになっている。18:30頃から22:00過ぎまでその方その方就寝時間がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、特に職員間の申し送りが強化されている。向精神薬は、眠気・ふらつき・よだれ等こまかな様子迄、共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦だった方には、食器洗い・拭き、仕事を持たれていた方には、メニュー書き、食堂を営んできた方には、タオル干し等、生活歴を把握した役割を持って頂ける様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	オーケストラを聴きに行きたい、との要望があった時、自衛隊の抽選に申込み、当選した9名でキタラに行った事もある。	天候状態に合わせて車椅子利用者も一緒にホーム周辺や公園の散歩と買い物に出ています。花見や小樽訪問など毎月の外出行事以外に随時、コンサートを聞きに行くなど頻繁に外出機会を持って楽しみのある暮らしの支援と身体機能維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時、さりげなく商品代金に見合う金額を入れた財布を渡しレジに並ぶ。また、欲しい物を吟味して買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は、混乱のない限り自由にできる環境にしている。混乱が生じる時には、ご家族に事情を説明し、ご家族経由にする時もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有廊下には、自由に座れるソファを用意している。また、雪に閉ざされる事がない様緑のスペースを設けている。ユニット廊下にはベンチもあり、散歩での休憩場所になっている。	居間兼食堂と浴室やトイレなどの共有空間は臭気もなく清潔さと適正な温度や湿度を維持しています。季節の飾りや鉢植え植物、壁面の手づくり作品飾りなどで家庭的雰囲気がある居間兼食堂や廊下にあるソファなどで利用者はのんびりと日中を過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの数を3台にし、気の合った入居者がそれぞれのソファに座って、気軽に会話ができる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、買い揃えるのではなく、馴染みの物を持ち込まれる様に話をしている。しゃべる動物等を持ち込まれる方もむいる。	居室入口にはきれいな模様ののれんが掛けてあり、室内にはドア近くの縦型手摺りと洋タンスや壁面のつり下げレールの設置で動きやすさと物品の整理に役立っています。利用者は馴染みの家具や調度品を好きなように配置し、居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、わかりやすい様別表記をしている。		